Osaka Gakuin University Repository

Title	off the ground の多義性について On the Polysemy of *off the ground*
Author(s)	黒宮　公彦 (Kimihiko Kuromiya)
Citation	大阪学院大学　外国語論集（OSAKA GAKUIN UNIVERSITY FOREIGN LINGUISTIC AND LITERARY STUDIES), 第 68 号：1-16
Issue Date	2014.12.30
Resource Type	Article/ 論説
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

大阪学院大学 外国語論集
第68号　2014年12月

off the ground の多義性について

黒　宮　公　彦

1. はじめに

筆者は黒宮（2010）の中で、Goldberg (1995, 2006) の「使役移動構文（caused-motion construction)」を仮定するだけでは、(1a) の off NP が「＜移動＞読み」となり、(1b) では「＜場所＞読み」となる[1] のがなぜなのか説明できないことを指摘した。その上で、両者の区別には off とどのような名詞（句）が結びついているかが重要な役割を担っていると主張した。

(1)　a. He sneezed the napkin off the table.　(Goldberg 1995:9)
　　b. The oil tanker spilled oil off the coast of Australia.　(黒宮 2010:405)

しかしながら、筆者が黒宮（2010）の中で主張したことは「＜移動＞読みと＜場所＞読みの区別の全てを off NP の NP が担っている」ということではない。Goldberg（1995, 2006）は（1a）のような文を例に挙げつつ、従来の「全てを動詞の意味に担わせる」という考え方ではうまくいかないことを示し、構文という代案を提示した。しかしこの「動詞か構文か」という二者択一では問題はまだ解決しないことを黒宮（2010）は指摘し、＜移動＞読みと＜場所＞読みの区別には off NP の NP が果たす役割も極めて大きいことを示しつつ、文の意味の解釈には名詞や前置詞も重要な役割を担っていると主張した。つまり「全てを動詞の意味で説明する」「全てを構文（の意味）で説明する」といった還元主義を批判したのであり、そうであるならば「全ては名詞と前置詞との組

み合わせで説明できる」という考え方も排除されるべきであろう。事実を一通り観察した上で、何らかの原理を想定することで全ての現象が説明できるのであれば全てをその原理に還元するのは妥当な考え方であるが、そうでなければ還元主義はむしろ害悪である。文の意味はその文に含まれる全ての語の意味、文に占める語の位置や他の語との結びつき（つまり構文的意味）、そして文脈といった要素から総合的に判断されるべきものであって、その一部分の情報で全てが説明できるようなものではない。

とはいえ黒宮（2010）では名詞と前置詞との組み合わせの重要性を強調しすぎたきらいがある。（NP）V NP_1 off NP_2 という形式を取る文に話を限定しても ― 実際黒宮（2010）ではそうしたわけだが ― off NP_2 が＜移動＞読みとなるか＜場所＞読みとなるかの区別の全てを NP_2 が担っているわけでは決してない。これを示す顕著な例が“off the ground”という句であり、いずれの意味でも用いられることがある。そこで本稿ではこの句が＜移動＞読みとなるか＜場所＞読みとなるかを判断するための要因が何であるのか、改めて考察してみたい。

ここでまず、off the ground が＜移動＞読みとも＜場所＞読みともなり得ることを、British National Corpus（以下 BNC と略記する）から採った実例を通して確認しておこう。

(2)　a. [T]ry to get the back wheels off the ground as you go along!
（BNC：A1F、＜移動＞読み）

b. Batches of 10 to 16 sheep are walked on to a platform which is 450mm (18in) off the ground.　（BNC：ACR、＜場所＞読み）

つまり off と the ground の組み合わせだけではどちらの意味となるのか決められず、決定のためにはさらなる要因を必要とする。しかも off the ground にはもう一つ重要な点がある。黒宮（2010）では BNC を用いて V NP_1 off NP_2

というパターンに当てはまる例を調査したのだが、該当する2116例中 NP_2 の位置に現れる頻度の最も高い名詞が ground（80例）だったのである。このように使用頻度の高い句が＜移動＞読みにも＜場所＞読みにも用いられ得るというのは興味深い事実と言えよう。

さらにもう一点、興味深い事実を指摘しておきたい。それは off the ground が“X gets Y off the ground”というパターンで用いられると「X が Y（計画など）を実行に移す（発足させる）」という意味のメタファ表現[2] として用いられることが非常に多いことである。

そこで本稿では BNC に現れる off the ground の使用例の観察を通じて、以下の２点について考察する。第一に、この句がどのような場合にメタファ表現となり、どのような場合に字義通りの意味として解釈されるか。そして第二に、off the ground が字義通りに解釈されるならば、それが＜移動＞読みとなるか＜場所＞読みとなるか。これら２点の各々について、その判断の根拠となる要因を探りたい。

2. 調査方法

本研究の行った調査は具体的には以下の通りである。まず BNC で“off the ground”という句を検索したところ342件がヒットした。次にこれら342例の全てに実際に目を通し、メタファ表現か字義通りの意味か、字義通りの意味ならば off the ground は＜移動＞読みか＜場所＞読みか、さらに“X V Y off the ground”というパターンの X、V、Y の位置にどのような語（句）が現れるかを観察した。

3. 調査結果と考察

調査の結果は以下の通りである。

3.1 他動詞と自動詞

他動詞を用いた“X V Y off the ground”というパターン以外に、自動詞を用いた“Y V off the ground”というパターン[3]も多数観察された。具体的には他動詞文172例に対し自動詞文153例[4]で、大きな差は見られなかった。なお受動文11例[5]については他動詞文に含めた。またこれ以外に動詞を伴わない“Y off the ground”というパターンも17例あった。

3.2 メタファ表現としての off the ground

メタファ表現としての off the ground は170例で約半数を占めた。うち“X V Y off the ground”で「X が Y（計画など）を実行に移す（発足させる）」、もしくは“Y V off the ground”で「Y が実現する（発足する）」という意味を表すものが166例で、全体のほとんど（97.6%）を占めた（該当しない４例については「その場限りの」メタファ表現で、それぞれ語の字義通りの意味と文脈とから文意が解釈されていると考えられる。なおこの点については注７も参照のこと）。すなわち off the ground がメタファ表現として用いられる場合は「Y を実行に移す／ Y が実現する」という意味を表す[6]のが大原則だと考えられ、本節では以下この用法について考察する。

off the ground がこの用法で使われているとの判断は次の２点に依るところが極めて大きい。

(3)　a. 動詞が get であること。
　　b. Y がある種の「計画」を表す名詞であること。

まず（3a）だが、上記の166の用例の中で使われている動詞は get が163例（98.2%）と圧倒的に多く[7]、それ以外は be、lift、help が１例ずつ見られただけだった。これは、後に見るように、字義通りの off the ground が＜移動＞読みの場合、最も多く用いられる動詞が lift であるのと対照的である。もっと

も、字義通りの＜移動＞読みに使用される動詞でliftに次ぐのがgetであり、動詞がgetであること自体はメタファ用法だと判断する決定的な要因とはならない。(3b）の条件も必須である。なお166例中、他動詞文は83例、自動詞文も同じく83例で、ちょうど半数ずつだった。getが用いられている163例でも他動詞81例、自動詞82例と半数ずつであり、“X gets Y off the ground”と“Y gets off the ground”とで使用頻度に大きな差はないと考えられる。

次に（3b）である。166の用例の中ではYに相当する名詞は基本的に抽象名詞だった。とりわけ多かったのはproject(s)（18例）とscheme(s)（12例）で、これらだけで18.4%を占めた。これらに次ぐのがassociation、business(es)、campaign、companyだったが、いずれもわずか４例ずつで、projectやschemeが他を圧倒していることが分かる。

もっとも、Yの位置に現れる具体的な語（語彙素）を数えればprojectやschemeが多いのは確かだが、もう一点考察しておくべきことがある。例えば上に述べたassociationとcompanyとは似たような概念（つまりある種の＜組織＞）を表していると見なすこともできる。このように、似たような概念を表している語どうしは一まとめにした上で、Yの位置にどのような概念を表す語が多く現れるのかについても考慮する必要がある。この場合でも＜計画・企画＞―projectやschemeはここに分類されるわけだが―が46例と最も多かったが、＜活動・行動・催し＞も40例とかなりの数に上った。このほか多かったのは＜組織・集団・施設＞（26例）、＜制度・システム＞（９例）、＜事物＞[8]（８例）、＜人＞（８例）、＜出版物＞（７例）である。これらは「計画」を表すものだとは言い難いが、その多くが何らかの目的のために行われる事柄、あるいはそれを達成するために作られる組織であるから、「計画されるもの」という側面を備えている。こうした名詞がYの位置に用いられることによってaccommodation（Langacker 1987:75-76）が生じ、get off the groundとの相互作用によってこの「計画されるもの」という側面が前面に押し出されるのだと考えられる。ただしここで注意すべきは、上述のとおり動詞

が get であること自体はこの用法だと判断する決定的な要因とはならず、また Y の位置に現れる名詞も直接は＜計画＞を表さないのであるから、「将来何か新しいことをしようと計画している」という文脈が必須だということである。こうした文脈があって初めて“X gets Y/Y gets off the ground”はメタファ表現だと判断される。

具体例を挙げよう。すでに述べたように、「計画」からはほど遠いように思われる＜人＞の例が８つ見られたが、それは次のようなものである。

(4)　Chris took the chair and I went through the list of things that needed to be done to get us off the ground[.]　　(BNC: FS0)

この us は our project を表すメトニミー表現だと考えられる。しかし同時にまた、“get us off the ground”の字義通りの意味、すなわち「(飛行機か何かを使って）自分たちを離陸させる（そして大空へと飛び立つ)」という意味も残っていると考えるべきであろう。計画を実行に移すことによって「離陸し、飛び立つ」のは計画それ自体であると同時に、計画を実行している人でもあるのだ。そう考えると Y の位置に＜人＞が現れるのは何ら不思議なことではない。

3.3 字義通りの意味の off the ground

off the ground の使用例342例中、メタファ表現170例を除いた残りの172例は字義通りの意味で用いられていたが、注４でも触れたように“level off the ground”（地面をならして平らにする）という１例は特殊なため[9] 除外し、171例を考察対象とした。また誇張表現の５例はこちらに含めた。

これら171例のうち他動詞文は85例、自動詞文は70例で、それほど大きな差は見られなかった。また動詞を伴わないものが16例あった。さらに＜移動＞読みが102例（他動詞文68例、自動詞文33例、動詞なし１例[10]）、＜場所＞読みが

69例（他動詞文17例、自動詞文37例、動詞なし15例）だった。ここから＜移動＞読みでは他動詞が多く用いられるのに対して＜場所＞読みでは自動詞が多用される傾向[11]が見てとれる。なお＜場所＞読みの例のうち動詞を伴わない15例についてはbeingoff the groundのbeingが省略されたものだと考えられるので、これらを自動詞文として勘定するとこの傾向はますます強まる。

3.3.1 名詞の相違

これら171の例で“X V Y/Y V off the ground”のYの位置に現れるのは具体的な物体、とりわけ乗り物や身体の一部といったものを表す名詞である傾向が見られる。すでに見たようにメタファ表現ではYは基本的に抽象名詞であり、重要な違いだと言える。

＜移動＞読みと＜場所＞読みとでYの位置に現れる名詞はそれぞれ以下のとおりだった。＜移動＞読み（全102例）で多く見られたのは＜人＞（33例）、＜乗り物（またはその一部）＞（24例）、＜身体（またはその一部）＞（14例、うちfoot（feet）が８例）、＜物体＞（12例）、＜生き物＞（３例）だった。他方＜場所＞読み（全69例）では＜人＞（15例）、＜物体＞（13例）、＜乗り物（またはその一部）＞（11例）、＜身体（またはその一部）＞（11例）という結果となった。ここから分かるように、＜物体＞の占める割合が＜場所＞読みの方がやや多い傾向が見られるが、それ以外には大きな違いは認められなかった。

3.3.2 動詞の相違

名詞に関して大きな違いが認められなかったのに対し、動詞に関しては顕著な相違が見られた。＜移動＞読みで多く見られたのはlift（33例）、get（18例）、raise（８例）、take（５例）であるのに対し、＜場所＞読みではbeが24例と突出して多く、次いでkeep（５例）だった。さらに＜場所＞読みでは動詞が省略されているものが15例観察されたが、すでに3.3節でも触れたよう

に、これらは全て being off the ground の being が省略されたものと考えられる。具体的には次のようなものである。

(5)　[H]e was advancing across the vineyards behind Poulette with his feet off the ground.　(BNC:C8M)

(5)では“his feet”と“off the ground”との間に being が省略されていると考えられる。こうした15例も be の用例と見なすならば、この用法での be の優位が圧倒的であることがわかる。

3.3.3 距離を表す要素

動詞・名詞以外の興味深い相違として「地面からの距離（もしくは地面から離れていること）を表す要素」とでも呼ぶべきものの存在が挙げられる。これはとりわけ＜場所＞読みと深く結び付いていると考えられ、＜場所＞読みの全69例中24例にこの要素が見られた。具体的には次のようなものである（イタリックによる強調は全て筆者による）。

(6)　a. The cage was now *a few feet* off the ground[.]　(BNC:AMB)
　　b. He was *a long way* off the ground[.]　(BNC:CH4)
　　c. He had no idea where he was and no idea *how far* off the ground he was.　(BNC:G0P)
　　d. [I]t made him think he was *higher* off the ground than he would have liked.　(BNC:G0P)
　　e. The standing part of the net needs to be *at least 2 feet 6 inches (75centimetres) high* off the ground[.]　(BNC:BNY)

(6)を見ると分かるように、副詞要素（＝(6a, b)）、形容詞（＝(6c, d)）、副

詞要素＋形容詞（＝(6e)）と形態は様々である。しかし foot（feet）や inch(es) といった語を用いて距離を具体的に示しているものが多く、全24例中19例を占めた。

他方＜移動＞読みでこのような要素が観察されたのは全102例中わずかに４例のみであり、＜場所＞読み34.8％に対して＜移動＞読み3.9％と、明確な差違が認められる結果となった。ここから予想されるのは、＜移動＞読みの off the ground は「何かが地面から離れること」そのものが着目されることが多いのに対し、＜場所＞読みだと「何かがすでに地面から離れている状態」を表すので、地面からの距離がどのくらいなのかについても注目され表現されることが比較的多いのではないか、ということである。

4. まとめ

以上の結果に基づき、本稿は以下を主張もしくは提案する。

まずメタファ表現としての off the ground についてであるが、3.2節で述べた事実を踏まえ、本稿は “get a project［scheme］off the ground”（または “a project［scheme］gets off the ground”）というコロケーションがこのパターンのプロトタイプ的な役割を果たしていると提案したい。すなわち、(3a) で述べたように、動詞が get であることが重要である。その上で “X gets Y/Y gets off the ground” の Y の位置に現れる名詞（句）と、project や scheme との類似性（もしくは近接性）によって句の意味や適切性が判断されていると考えるのである。ただし、(4) で確認したように、この適切性の判断には文脈が重要な役割を担っている。すなわち文脈により Y の位置の名詞が「計画され実行に移されるもの」あるいは比喩的に「離陸し、飛び立つもの」の一種だと判断されるのであれば、その表現は容認される。言い換えると、このパターンの生産性は Y の位置に生じる名詞がどれだけ容認されるかにかかっており、それはその名詞と project/scheme との類似性（もしくは近接性）の度合いを文脈を加味した上で判断することにより行われているということである。[12]

この点はoff the groundが字義通りの意味で用いられている場合にはちょうど逆になる。つまり、3.3.2節で見たように、動詞はgetであることも少なくないが、それ以外の動詞が用いられることも多く、しかもメタファ表現ではほぼgetで固定されているのに対し、字義通りの意味では様々な動詞が観察された。off the groundがメタファ表現として用いられているか字義通りの意味で用いられているか区別するために重要な手掛かりとして、動詞と並んでYの位置に生じる名詞が挙げられる。上で述べたようにメタファ表現ではYの名詞のプロトタイプはproject/schemeであるから、この位置に生じる名詞は抽象名詞が基本である。他方、字義通りの意味で用いられている場合には、3.3.1節で見たように、Yの位置に生じる典型的な名詞は＜飛行する乗り物＞もしくは＜身体（の一部）＞といった具体的な存在物である。もちろんこれは大まかな傾向であって、(4)で見たようにYの位置に＜人＞が現れることもある。したがってメタファ表現と字義通りの意味の表現との区別には「将来何か新しいことをしようと計画している」という文脈、あるいは「飛行機か何かを飛ばそうとしている」といった文脈が極めて重要な役割を果たしている。

次に、off the groundが字義通りの意味で用いられている場合の、＜移動＞読みと＜場所＞読みとの区別である。これに関しては、3.3.3節で見たように「距離を表す要素」の有無という点で大きな違いが認められる。しかしそのような要素が現れるのは＜場所＞読みの用例全体の３分の１程度であり、一方で＜移動＞読みでもそのような要素が現れるのは皆無というわけではない。結局のところ両者を区別するための手掛かりにある程度はなるものの、決定的な要因とはとても言えない。やはり最も重要なのは動詞である。3.3.2節で見たように、＜移動＞読みの用例に現れるのはlift、get、raise、takeといった動詞で、当然のことながら何らかの物体を移動させることを表すものばかりである。また＜場所＞読みの用例に現れるのはbeが圧倒的に多く、次いでkeepであり、いずれも状態を表す動詞である。ここから字義通りの意味のoff the groundが＜移動＞読みと＜場所＞読みのいずれを表すかについては、主に動

詞によって判断されていると考えてよいだろう。ただし(5)で見たように動詞が用いられていないこともあり、この場合は＜場所＞読みとなる。

最後のこの「動詞によって判断されている」という結論に対して「そんなことは自明だ」という感想を抱く読者もおられるかもしれない。しかし実際の用例に目を通せばこれは決して自明でないことが分かる。文の意味を理解するために動詞は確かに重要な役割を果たしている。しかし動詞の意味だけで全てが決定されるわけではない。では動詞によって何が分かり、何が分からないのか。動詞によって分からないことは何を手掛かりにして判断されるのか。「動詞は重要だ」と言うだけでは何も解決しない。黒宮（2010）はこうした問題意識から出発しており、その上で文の意味を理解するためには名詞や前置詞も重要であることを示した。本稿はこの考えを前提としているのであって、名詞や前置詞の重要性を認めた上で改めて「動詞によって判断されている意味」に関しては「確かに動詞によって判断されている」と認めているのである。

実際、＜移動＞読みか＜場所＞読みかが動詞によって判断されているということが自明であるというのなら、(5)のように動詞が用いられていない例についてはどう判断されるというのだろうか。「動詞のない NP_1 off NP_2 の off NP_2 は常に＜場所＞読みとなるのだ」と考える読者がおられるかもしれないがそうではない。黒宮（2010: 409）に挙げた例を再び引いておこう。

(7)　a. Elbows off the table.　（BNC:CH8）
　　b. Feet off the table!　（BNC:KD5）

いずれも「ひじ（足）をテーブルからどけなさい」という意味の、＜移動＞読みの例である。動詞は省略されているが、それでも＜移動＞読みであることは分かる。この判断がどこから来るものなのか、(5)と何が違うのか。少なくとも「動詞は重要だ」ということを自明と受け取っているだけでは解決しない問題である。

文の意味はその文に含まれる全ての語の意味、文に占める語の位置や他の語との結びつき、そして文脈（これには社会常識等の百科事典的知識も含まれる）といった要素から総合的に判断される ― つまりこれらの要素はバラバラに存在しているのではなく相互作用をするのであり、それぞれの要素を単純に足し合わせる以上の、総合的な判断が必要なのである ― ということを改めて強調し、本稿の締めくくりとしたい。

注

1　Quirk *et al*.（1985：675）の destination、position の用法がそれぞれ＜移動＞読み、＜場所＞読みに相当する。

2　認知言語学では「メタファ」と「メタファ表現」とを区別することが多く、本稿でもこれに従うことにする。なお両者の違いについては Lakoff（1993）を参照。

3　自動詞文の主語の位置に現れるのは「地面から離れる（もしくは離れた状態にある）もの」であり、他動詞文の目的語の位置に現れる要素と共通するものが多い。そのためこれらをともに Y で表すことにする。

4　ここで言う「自動詞文」とは Y V off the ground というパターンに当てはまる文のことである。このパターンに当てはまる文の動詞を自動詞と見なしても通常は問題ないが、中には3.3節や注 9 で触れる“level off the ground”のように自動詞と見なすべきか他動詞とすべきか迷うものもある。この例はここでは自動詞文に含めたが、それはこの動詞が自動詞だと判断されるからだというよりはむしろ、Y V off the ground というパターンに当てはまるからだとお考え頂きたい。もっとも“level off the ground”の off the ground は「地面から離れ（てい）て」という意味ではないので、そもそもここで扱うこと自体が不適切なのかもしれない。この場合自

動詞文は152例ということになる。

5　因みに受動文11例の内訳は、メタファ表現１例に対して字義通りの意味のものが10例だった。明らかに偏りが見られる。

6　なおこの用法は「字義通りの意味としては＜移動＞読みであるoff the groundがメタファ表現として用いられたもの」だと考えるべきであろう。

7　因みにメタファ表現としてのoff the ground全170例中「実行に移す／実現する」という意味でないものが４例あったわけだが、いずれの例でもgetは使われていなかった。

8　Yの位置に現れる名詞が“thing(s)”であるものをここに分類した。

9　これはlevel off全体が１つの句動詞として働いていると見なすべきであろう。

10　動詞を伴わない１例については、文脈から判断するとどちらかと言うと＜移動＞読みのように思われるのでこちらに含めることにするが、実際には＜場所＞読みとも受け取れる。

11　3.1節で述べたように、off the ground と共起する動詞は他動詞172例に対し自動詞153例だった。ここから3.3節や注４、注９で述べた理由により“level off the ground”の１例を除き、自動詞は152例だと考えると、全体で324例となる。したがって＜移動＞読み102例に含まれる他動詞の用例の期待値は172/324に102を乗じたもの、自動詞の用例の期待値は152/324に102を乗じたものとなる。この値を用いてχ^2検定してみると$\chi^2=8.22$（$p<0.005$）となる。また＜場所＞読みについても同様に計算すると$\chi^2=10.12$（$p<0.005$）となる。なお動詞を伴わないoff the groundの用例は計算に入れていないが、これらを自動詞の用例として勘定するならばχ^2の値はより大きなものとなる。

12　この点についてはGries（2006）も参照。

参考文献

Barlow, Michael (2000), "Usage, Blends, and Grammar", in Barlow and Kemmer (eds.), pp.315-345.

Barlow, Michael and Suzanne Kemmer (eds.) (2000), *Usage Based Models of Language*, Stanford: CSLI Publications.

British National Corpus http://www.natcorp.ox.ac.uk/

Goldberg, Adele E. (1995), *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*, Chicago: The University of Chicago Press.

—(2006), *Constructions at Work: The Nature of Generalization in Language*, Oxford: Oxford University Press.

Gries, Stefan Th. (2006), "Corpus-based methods and cognitive semantics: The many senses of *to run*", in Stefan Th. Gries and Anatol Stefanowitsch (eds.), *Corpora in Cognitive Linguistics*, Berlin/New York: Mouton de Gruyter, pp.57-99.

Hunston, Susan and Gill Francis (2000), *Pattern Grammar: A Corpus-driven Approach to the Lexical Grammar of English*, Amsterdam: John Benjamins.

黒宮公彦 (2010)、「＜移動＞の意味はどこから来るのか—off NP をめぐって」、『日本認知言語学会論文集』第10巻、pp.405-415.

Lakoff, George (1993), "Contemporary theory of metaphor", Andrew Ortony (ed.), *Metaphor and Thought*, 2nd ed., Cambridge: Cambridge University Press, pp.202-251.

Langacker, Ronald W. (1987), *Foundations of Cognitive Grammar*, vol.1, Stanford: Stanford University Press.

Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik (1985), *A Comprehensive Grammar of the English Language*, London: Longman.

Sinclair, John M. (1991), *Corpus, Concordance, Collocation*, Oxford: Oxford University Press.

—(1996), “The Search for Units of Meaning”, in John Sinclair (2004), *Trust the Text*, London: Routledge, pp.24-48.

Stefanowitsch, Anatol and Stefan Th. Gries (eds.) (2006), *Corpus-Based Approaches to Metaphor and Metonymy*, Berlin/New York: Mouton de Gruyter.

Stubbs, Michael (2002), *Words and Phrases—Corpus Studies of Lexical Semantics*, Malden/Oxford: Blackwell Publishing.

On the Polysemy of *off the ground*

Kimihiko Kuromiya

Kuromiya (2010) has shown that we can roughly distinguish MOTION *off*s from POSITION *off*s according to the noun that comes after them. The phrase *off the ground* is unique in this respect, because it can be used either in a MOTION sense or in a POSITION sense. What is more, it can also be used in a metaphorical sense as in *The project got off the ground*. In this article I will try to answer how we successfully distinguish these three senses of the phrase and make the following two specific proposals, based on the results of the survey using *British National Corpus*: 1. Determining whether the phrase is literal or metaphorical depends mainly on the noun that appears in the Y position of "X gets Y off the ground" or "Y gets off the ground." 2. Determining whether it is used in a MOTION or POSITION sense depends mainly on the verb.